

Pictorial 4: Geomorphological and Geological Evidences for Crustal Movement of Late Quaternary around Cape Muroto



写真 1 室戸半島の海成段丘面。

室戸市西山付近を北西より撮影。M1面(室戸岬面I)は最終間氷期最盛期(酸素同位体ステージ5e)の形成とされ、この付近での旧汀線高度はおおよそ170mである。ここでは完新世海成段丘面はL2面が広く発達し、L1面は海食崖の下にわずかに分布する。



写真 2 室戸岬付近の完新世海成段丘面。

室戸岬灯台の東側斜面を南東側から撮影。L1面とL2面はおおよそ主要道路をはさんで分布している。L1面とL2面の高度はそれぞれ11m、8m程度である。



写真 3 室戸岬先端の岩礁群。

緑の破線で囲んだ範囲は隆起付着生物化石が特に集中的に分布するエリア。

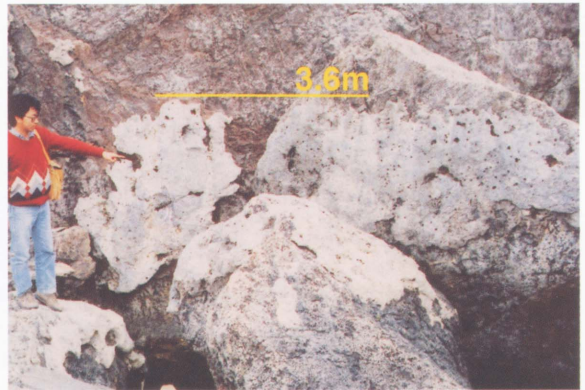


写真 4 室戸岬付近の岩礁側面にはりつく化石付着生物。ここではヤッコカンザシの他に造礁サンゴのハマサンゴやサンゴモなどの石灰藻も付着している。



写真 5 室戸岬先端部の岩礁に付着する隆起付着生物群。

ここでは標高6.2mを上限に、ヤッコカンザシの密集帯と思われる化石群が見られる。この群から $^{14}\text{C}$ 年代値は得られていないが、同じ高度帯からは約2800~1000yrsBPの年代が得られている。

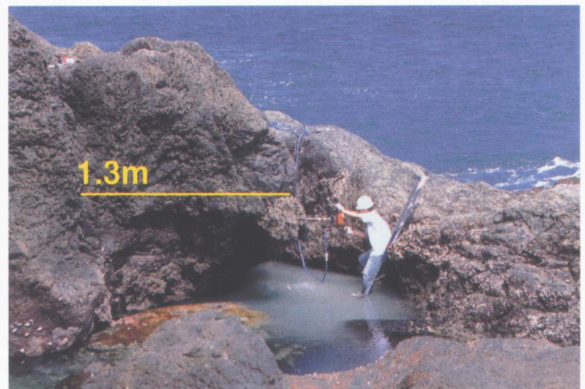


写真 6 室戸岬付近の海面付近に付着する隆起付着生物群。ここでは1.3m付近にヤッコカンザシを主体とする付着生物群が密集して分布し、付近一帯に連続的に広がっている。この群からは約800yrsBPの $^{14}\text{C}$ 年代が得られている。

(前空英明 Hideaki MAEMOKU)